

05

【団体部門】

特定非営利活動法人 活エネルギーアカデミー^{かつ} (岐阜県高山市)

— 高山を日本一しあわせに暮らし人のまちに! —

農林漁業・農村文化体験

環境保全・景観保全

高齢者の活躍



問い合わせ先

〒506-0045

岐阜県高山市赤保木町297

tel 0577-32-6044

fax 0577-32-6044

mail info@enepo-takayama.com

積まマイカー：定期便、自然エネルギーの循環



地域住民と共に雪害による倒木を処理



子ども大学：学長は高山市教育長

概要

- 森林の環境保全と里山の暮らしを次世代に継承するため、間伐材の搬出の物流システムを「木の駅プロジェクト」として実施。
- 会員（111名）が伐採した木材は、市内10カ所の「木の駅（集積所）」に集められ、1トン6千円で市内76の飲食店やガソリンスタンドで利用できる地域通貨 enepo（エネポ）に交換。
- 集まった間伐材は市内の加工所で燃料用チップにされるほか、建築材としても活用。また、市内の小学生が自然エネルギーの活用を学習する場として、子ども大学を夏冬開催。

成果

- 間伐材の年間伐採本数は、1,298本から8,000本に増加（H27～R2）。
- 間伐材と交換される地域通貨（500円＝500nenpoで地域通貨対価交換）の発行枚数は、1,475枚から6,000枚の約4倍に増加（H27～R2）。

【団体部門】
06 か し も もく しょう じゅく
加子母木匠塾
岐阜県中津川市

— ヒノキの本場で学ぶ匠の技「加子母木匠塾」—

農林漁業・農村文化体験

教育機関との連携



完成した福崎公園バス停



岐阜県
中津川市

問い合わせ先

〒508-0421

岐阜県中津川市加子母3519-2

tel 0573-79-3669

fax 0573-79-3669

mail kashimomurazukuri@gmail.com



福崎公園バス停の作業風景：滋賀県立大学

概要

- 平成7年に建築系の大学教授が中心となり「加子母木匠塾」を設立。令和元年は8大学が参加するとともに、25周年を迎え、延べ4千人以上の学生が木造建築に真剣に向き合った。
- 学生たちは、夏休みの約2週間で日本の伝統的な木造建築の技法を学ぶとともに、トマトの収穫や郷土料理の朴葉寿司づくり体験など、農山村地域の現状を考えるきっかけとなる体験メニューも織り交ぜながら実施。



中学生への引き渡し式：金沢工業大学

成果

- 令和元年の参加大学は、京都大学、京都工芸繊維大学、京都造形芸術大学、立命館大学、滋賀県立大学、金沢工業大学、名城大学、東洋大学の8大学で278名が参加。
- 学生たちが農山村地域での田舎暮らしを体験し、卒業後も継続的に地域に関わることで、高齢者など地域住民の地域資源の再認識や誇りの再生、また、年間通して学生たちが対流することにより地域が活性化。

07

【団体部門】

愛知県立安城農林高等学校エグプロ研修班 (愛知県安城市)

— 純国産鶏「岡崎おうはん」による地域興し —

伝統の継承

企業との連携

その他(官学連携)



岡崎市との官学連携協定調印式の様子



愛知県
安城市

問い合わせ先

〒446-0066

愛知県安城市池浦町茶筌木1番地

tel 0566-76-6144

fax 0566-74-0443

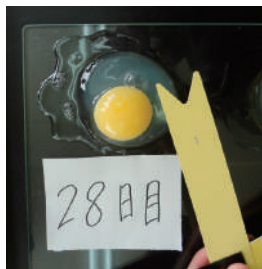
mail kji-adm@anjonorin-h.aichi-c.ed.jp



純国産鶏「岡崎おうはん」

概要

- 国内に2%しかいない純国産鶏「岡崎おうはん」を活用したプロジェクトを立ち上げ、三河の養鶏業・農業の魅力を全国に発信。
- 「岡崎おうはん」を普及する団体と連携を図り、令和2年8月には普及を事業化している岡崎市と産学連携に関する包括協定を締結。



ホワイトおうはん(カラーレベル1)



新マスコット
「オカおうはん」

成果

- 令和元年4月に「岡崎おうはん」の知名度向上のため、「名古屋コーチン」に対抗して、見た目にインパクトのある卵黄を白色にした「ホワイトおうはん」の開発に成功。令和2年にはマスコミに発表。
- 岡崎おうはんを普及する会、家畜改良普及センター岡崎牧場、地元企業と連携し、「岡崎おうはん」の6次産業化にも取り組む。

08

【団体部門】

スリーシーズ合同会社

(愛知県大府市)

— 農で結ぶ「輪」～人・食・どぶろく・福祉 —

農林漁業・農村文化体験

6次産業化

農福連携



食べるどぶろく

愛知県
大府市



問い合わせ先

〒474-0061

愛知県大府市共和町五丁目155番地

tel 0562-57-7171

mail hatakezoku@gmail.com



農家カフェ「はたけぞく」

概要

- 異業種から農業に参入した自然栽培米・野菜の生産者が、生産者と消費者を結び付ける農業を実現するために平成 30 年に法人を設立。
- 都市近郊の特性を活かして、令和元年に古民家をリノベーションして活動拠点となる農家カフェ「はたけぞく」を開業。
- 大府市が構造改革特区「健康都市おおぶ どぶろく (DOBUROKU) 特区」に認定されたことを受けて、カフェに併設した醸造所で室町時代に由来する仕込み方法でどぶろくを醸造・販売。

成果

- 農家カフェ「はたけぞく」で自家製(自然栽培)農産物、加工品等の販売(カフェ毎週月曜定休日、マルシェ月 2 回以上出店)。また、畑での体験農園等のイベントも開催し、延べ 1,000 人を受入れ (R2)。
- 令和元年から、市内の就労継続支援B型事業所の施設外就労を受入れ、農福連携を実施。多様な野菜を生産する特色を活かして、年間を通じて障がい者の体験作業を提供。令和 2 年からは週 1 回受入れ。



直売イベントへの出展

09

【団体部門】

いがまち山里の幸利用組合かじか

(三重県伊賀市)

—— ジビエの利用拡大と新規ビジネスの立ち上げ! ——

鳥獣被害防止

ジビエ

企業との連携



小売店でのみえジビエ加工品販売



三重県
伊賀市

問い合わせ先

〒519-1421
三重県伊賀市山畑3583

tel 0595-45-8671

fax 0595-45-8671

mail info@bashonorin.com



解体処理研修会

概要

- 平成 21 年から鹿肉の利活用に取り組み、平成 24 年に地元猟友会と連携して「いがまち山里の幸利用組合かじか」を立ち上げ。獣肉利活用の活動を本格化しビジネス展開を開始。
- 捕獲や解体処理技術、徹底した衛生管理の取組を多くの担い手に伝えるため、三重県内の解体処理事業者等に対し、現場視察の受入を行い技術指導に取り組む。



ペットフードの生産(ジャーキー)

成果

- 食肉以外として、ペットフードの生産、原料供給にも取り組み、内臓・皮等も無駄なく利活用。
- ジビエ利用頭数は年々増加しており、「みえジビエフードシステム登録制度」に登録した団体全体の約1/4を占め、ブランド化に貢献。その結果、ジビエの売上金額は、食肉、ペットフードを含め 1 千万円以上 (R 元)。

10

【個人部門】

みしま まこと
三島 真
(岐阜県郡上市)

— 水が暮らしに溶け込む郡上の四季を体験に！ —

農泊

食育・教育

移住・定住



夏の冒険キッズ。川遊びのようす



問い合わせ先

〒501-4307

岐阜県郡上市明宝二間手606-1

tel 0575-87-0130

fax 0575-87-0131

mail missykohcho@gmail.com



明宝ふるさとクラブの体験メニュー・田植え

概要

- 平成9年度から小学1～6年生の都会の子ども達を対象に、自然体験旅行「冒険キッズ」の取り組み。
- 平成29年度に発足した岐阜県のグリーン・ツーリズム協議会組織である「ぎふの田舎へいこう」推進協議会の事務局長を歴任。
- 郡上市明宝地域と都市を太いパイプで結ぶことを目的に、平成27年度に明宝ファンクラブ「明宝ふるさと家族」（平成30年度に「明宝ふるさとクラブ」に改名）を結成。地域活性化に貢献。

成果

- 自然体験旅行「冒険キッズ」の参加人数は平成15年には1万人を超え、平成27年まで続きました。平成28年以降は、年平均4～5千人。これを契機にインストラクターの移住が進み、20人を超える若者が定住し、現在ではその子ども達も含めると50人以上。
- 「明宝ふるさとクラブ」の会員（家族）数は、平成28年度の45家族から令和2年度は134家族に増加。



三島 真氏

11

【個人部門】

すぎ た まさ こ
杉田 雅子
(愛知県豊田市)

— ブルーベリーに夢をのせて —

農林漁業・農村文化体験

雇用

6次産業化



豊田市の栄養教諭とのふるさと発見授業は13年目



愛知県
豊田市

問い合わせ先

〒441-2513

愛知県豊田市稲武町中シモ田3番地6

tel 0565-82-3365

fax 0565-82-2024

mail msugita@hm10.aitai.ne.jp



ビックサイトでの稲武商工会主催の全国展開支援事業の様子

概要

- 平成 17 年に農業に参入し、遊休農地 70a を借り受けてブルーベリーの植え付け、管理を開始。15 年間で農園 40 力所、4.2ha まで拡大。
- 平成 24 年からは自社農園のブルーベリーを材料にジャムやケーキの加工販売をする直販店をオープン。
- 稲武小学校でのふるさと発見授業は 13 年目。稲武中学校、足助高校での職場体験は 12 年目。その子供たちの雇用にも尽力（10 人を雇用。このうち 20 ～ 30 歳代の割合は 50%）。

成果

- 観光農園の来場者数は、平成 27 年度の約 1,300 人から令和 2 年度は約 1,500 人に増加。加工販売をする直販店では、7、8 月で 15,000 人が来店。
- 雇用人数は、平成 27 年度の 8 人から令和 2 年度は 11 人に増加。農繁期はさらに 10 人程度の地元ののお年寄りがお手伝い。



ケーキ屋スタッフと杉田雅子氏(前列右)